

主要産地における平成27年産水稻の生育状況等について 第7報 (7月9日現在)

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部 (平成27年7月10日)

道府県	生育状況等		同左及び周辺事情に対する自治体等公表資料等 (抜粋)
	区分	育苗・田植進行状況・生育状況等 (自治体等公表資料の抜粋) 平年に対する遅速等	
北海道	(生育)	<p>(金道) 生育は平年並。一部地域で生育はやや遅れている。草丈は40.6cmでやや短く、葉数は8.8枚で平年並、葉数は517本/m²で平年並。(北海道農政部 7月1日現在)</p> <p>(空知) 6月下旬の低温・日照不足により生育は緩やかとなり葉数は少ない(遅1日)。草丈は41.6cmで平年並、葉数は8.9枚で平年並、葉数は497.6本/m²で少ない。(空知総合振興局 7月1日現在)</p> <p>(石狩) 生育は6月5半旬以降の曇天により緩慢になったがやや進んでいる。(早2日)。草丈は36.0cmで平年並、葉数は8.1枚で平年並、葉数は443本/m²が多い。(石狩総合振興局 7月1日現在)</p> <p>(後志) 生育は平年並。草丈は37.4cmで平年並、葉数は8.6枚で平年並、葉数は463本/m²で平年並。幼穂形成期は7月3日の見込み。(後志総合振興局 7月1日現在)</p> <p>(胆振) 生育は平年並(遅1日)。草丈は30.2cmで短く、葉数は8.3枚で平年並、葉数は412.6本/m²が多い。(胆振総合振興局 7月1日現在)</p> <p>(日高) 生育は平年並みに推移している。草丈は41.0cmでやや短く、葉数は8.5枚で平年並、葉数は443.8本/m²で平年並。(日高振興局 7月15日現在)</p> <p>(渡島) 生育は平年より早く推移(早5日)。草丈は38.2cmで長く、葉数は8.4枚でやや多く、葉数は623本が多い。(渡島総合振興局 7月1日現在)</p> <p>(樺山) 生育は遅滞・低温の影響がある(遅1日)。草丈は35.6cmで短く、葉数は8.4枚でやや少なく、葉数は482.8本/m²でやや少ない。(樺山振興局 7月1日現在)</p> <p>(上川) 生育は平年よりやや遅れて推移している(遅3日)。草丈は42.5cmで短く、葉数は9.1枚で平年並、葉数は578本/m²で平年並。幼穂形成期は6月28日で、(上川総合振興局 7月1日現在)</p> <p>(留萌) 生育は6月下旬の低温で緩慢となり、平年に比べてやや遅れている(遅2日)。草丈は42.3cmでやや短く、葉数は8.9枚で平年並、葉数は455本/m²でやや少ない。(留萌振興局 7月1日現在)</p> <p>(オホーツカ) 生育は平年並み(遅1日)。草丈は44.7cmでやや短く、葉数は7.5枚で平年並、葉数は394.0本/m²でやや少ない。幼穂形成期の平年値は7月2日。(オホーツカ総合振興局 7月1日現在)</p>	<p>・7月のいもち病の発生期はやや早、発生量ははやや多い予報(北海道病害虫防除所 6月30日公表)</p>
青森	(生育)	<p>・6月30日現在の生育は、草丈及び葉数は平年並から上回っている。葉数からみた生育の進度は、「つがるロマン」、「まっしぐら」とも平年より程度進んでいる。 つがるロマン(全県8地点)は、草丈45.4cm(平年比103%)、株当たり葉数24.1本(平年比118%)、葉数9.8枚(平年差+0.5)、まっしぐら(全県13地点)は、草丈51.5cm(平年比103%)、株当たり葉数23.4本(平年比122%)、葉数9.2枚(平年差+0.4)。(青森県 7月3日付)</p> <p>・生育状況(6月30日現在) (黒石) 6月19日から6月29日までの平均気温は、平年に比べ0.5℃低く、日照時間は平年比101%と並みであった。つがるロマンは、草丈は44.1cmで平年より3.3cm短く、株当たり葉数は33.0本で平年より3.7本多く、葉齢は9.3葉と多く、葉数は0.8葉少なかった。「青天の霹靂」は「つがるロマン」と比べ、草丈が7.6cm長く、株当たり葉数は2.1本少く、葉齢は0.8葉少なかった。 (十和田) 6月19日から6月29日までの平均気温は、平年に比べ0.2℃低く、日照時間は平年比99%と並みであった。つがるロマンは、草丈は53.8cmで平年より0.2cm短く、株当たり葉数は24.1本で平年より1.1本多く、葉齢は9.4葉で平年より0.5葉多かった。(青森県産産技術センター農林総合研究所 6月30日現在)</p>	<p>・7月の葉いもち及び稲こじ病は平年並と予報。コバネイナゴは平年並、アカヒゲホソドリカスミカメ及びフタオビコヤガははやや多いと予報。(青森県病害虫防除所 7月2日公表)</p>
岩手	(生育)	<p>・生育概況(7月6日現在) 農業研究センター(北上)では、「ひとめぼれ」、「あきたこまち」の草丈、葉数、葉色(SPAD値)は平年並、葉数は「ひとめぼれ」で平年を上回り、「あきたこまち」で平年並。葉色(SPAD値)は平年と同様に低下し始めている。分けつは発生はほぼ終了したと推定される。(平均34本/株、4株増え)</p> <p>農業研究センター(軽米)では、「いわてつばき」の草丈は平年を下回り、葉数、葉色(SPAD値)は平年並で、葉数は平年を上回っている。葉色(SPAD値)は平年と同様に低下し始めている。分けつは発生は終了し、葉数は減少し始めている。(岩手県農業研究センター 7月7日付)</p>	<p>・7月3~4日の調査で、県中南部で葉いもちの本田発生を確認した。早期発見に努め、防除対策を講じるよう指導。(岩手県病害虫防除所 7月6日公表)</p> <p>・7月のいもち病、斑点米カメムシ類の発生ははやや多いと予報(岩手県病害虫防除所 6月30日公表)</p>
宮城	(生育)	<p>・生育は平年に比べて早く、古川農業試験場のひとめぼれ(5月10日移植)は7月5日に幼穂形成期となっている。北部平坦地帯における中生品種の出穂期は8月1日頃となる見込み。7月1日現在の生育調査ほの「ひとめぼれ」の生育状況は、草丈52.2cm(平年比104%)、葉数537本/m²(平年比102%)、葉数10.0枚(平年差+0.3枚)、葉緑素計(GM)値40.8(平年差-0.2%)。(宮城県米づくり推進本部 7月2日)</p> <p>・7月1日現在、気温が平年より高く推移していることから、水稻の生育は概ね順調であり、葉数(平年差+0.2枚)からみると平年に比べて2~3日程度進んでいると思われる。生育調査ほの県全体平均は、草丈が51.6cm(平年比104%)、1m当たり葉数が557本(平年比103%)であった。県平均の「幼穂形成期」は7月7~8日頃と見込まれる。(宮城県 7月2日付)</p> <p>(大河原) 7月1日の管内の生育調査ほは、葉数はやや多め、草丈、葉色は平年並となっている。葉数がやや多く、生育はやや早くに経過している。早いところでは、幼穂の発達が確認できた。平坦な地域では、7月上旬から幼穂形成期になると予想される。(大河原農業改良普及センター 7月1日付)</p> <p>(美里) 7月1日現在、移植栽培(3地点)の生育は前年並に早く、出穂は8月1日頃からとみられる。直播栽培の生育は概ね順調。県全体の生育調査ほの生育は平年を上回り、幼穂も平年より長くなっている。県平均の幼穂形成期は、7月7~8日頃と見込まれる。北部平坦の中生品種の出穂期は、8月1日頃の見込み。(美里農業改良普及センター 7月3日付)</p> <p>(栗原) 7月1日現在、生育は平年より4日前後進んでいる。連体初めに田植した調査ほでは、平年より4日早い7月1日に幼穂形成期になった。直播栽培展示ほの葉数は7葉期になった。生育調査ほ(ひとめぼれ)3ほ場の平均は、草丈は長く(平年比105%)、葉数は平年並(平年比99%)、葉数は平年より多く(平年差+0.5枚)、葉色は平年並(平年比100%)、草丈は平年より長く、葉数は平年並、葉数は平年より多く、葉色は平年並。(栗原農業改良普及センター 7月2日付)</p> <p>(仙台) 7月1日現在、水稻直播栽培における必要葉数(370~420本/m²)を確保したほ場と、確保できていないほ場がある。(仙台農業改良普及センター 7月2日付)</p> <p>(大崎) 生育は旺盛で草丈、葉数平年を上回るところが多く、葉数と葉色は平年と比較してばらつきがあるものの、順調に生育している。ほとんどのほ場で葉数は400~500本/m²あり、有効葉数は確保され中干しの時期に達している。もう間もなく幼穂形成始期(幼穂長1mm)に達すると考えられる。(大崎農業改良普及センター 7月2日付)</p> <p>(登米) 7月1日現在、生育調査ほの生育は、草丈は平年と同程度で、葉数は平年並と少なく、葉数は平年よりやや多く、葉色はほ場によってはバラツキがある。前回調査に比べて、急激に葉色の低下したほ場も見受けられる。生育良好なほ場では幼穂分化が確認されている。出穂期は8月1日頃と、平年値より3日早いとみられている。(登米農業改良普及センター 7月2日付)</p> <p>(石巻) 7月1日現在の生育調査ほの生育状況は、葉数は平年比の84~97%と、平年並~やや少なくなった。葉色は、ササニシキ(桃生)で平年差-3.7ポイントと平年を下回ったが、その他の調査ほでは平年並となった。ひとめぼれでは、0.3mm程度の幼穂が確認された。(石巻農業改良普及センター 7月3日付)</p> <p>(本吉) 7月1日調査の結果、生育のスピードは鈍化し、平年より5日程度の進みとなった。葉数は両生育調査ほとも必要葉数を確保した。気仙沼市の生育調査ほ(ひとめぼれ)では、平年と比較して、草丈は平年並、葉数はやや少なめ、葉数は多く、葉色はやや薄くなっている。南三陸町の生育調査ほ(ササニシキ)では、平年と比較して、草丈は長く、葉数は多く、葉数は多く、葉色はやや薄くなっている。管内の移植水稻は、おおむね必要葉数(約450本/m²)を確保したと思われる。(本吉農業改良普及センター 7月2日付)</p> <p>(亶理) 6月10日調査(ひとめぼれ)の結果、葉数は前年を上回り、葉数も前年より多くなる傾向がみられる。田植後の気温が高く推移したことから、土壌の還元が進み、生わらや未熟たい肥を施用した水田では還元障害による水稻の活着不良や生育抑制が見られる。(亶理農業改良普及センター 6月17日付)</p>	<p>・7月下旬までの葉いもちの発生時期はやや遅く(7月第4半旬)発生量は平年並、穀枯病の発生量はやや多く、稲こじ病の発生量は平年並、斑点米カメムシ類の発生時期は平年並(7/21~7/25)で発生量は多い予報(宮城県病害虫防除所 7月3日公表)</p> <p>・注意報一斑点米カメムシ類の発生量が県内全域で多い予報(宮城県病害虫防除所 7月3日公表)</p> <p>・7月の葉いもちの発生時期・発生量は平年並、コバネイナゴの侵入時期は平年並だが発生量ははやや多い予報(宮城県病害虫防除所 6月23日公表)</p>
秋田	(生育)	<p>(北秋田) 生育は良好。ほとんどのほ場が中干し(落水管理)を行っており、葉の充実を回っている。(7月3日付)</p> <p>(秋田) 水稻の生育は概ね順調。葉数が確保されたほ場で中干しが始まっている。(7月3日付)</p> <p>(由利) 生育は順調に推移し、多くのほ場が中干しを実施中。ほ場内の水管理をしやすくするための溝掘り作業も行われている。(7月3日付)</p> <p>(鹿角) 好天により生育は順調に進んでいる。葉齢では8~9葉が展開中。(6月19日付)</p> <p>(山本) 6月25日現在の生育状況は、草丈37.5cm(平年比101%)、葉数454本/m²(同比116%)、葉数8.7(同差+0.1葉)、葉色43.3(同比98%)で、平年に比べ草丈は平年並、葉数は多め、葉数は平年並、葉色はやや薄め。(6月22日付)</p> <p>(仙北) 6月10日現在、草丈24.1cm(平年比98%)、葉数131本/m²(平年比90%)、葉数5.9葉(平年比+0.1葉)となっている。草丈、葉数は平年並みの生育となっているものの、葉数は平年を下回っている。(6月12日付)</p> <p>(平鹿) 6月25日に行った水稻生育定点調査(あきたこまち11か所)の結果では、草丈が35.5cm(平年比99%)、葉数が435本/m²(118%)、葉数は8.9葉(平年差+0.6葉)、葉色42.3(平年比96%)となっており、生育は平年をやや上回っている。(6月26日付)</p> <p>(雄勝) 6月10日の調査の結果(管内8ヶ所平均)は、草丈24.9cm(平年比102%)、1mあたり葉数136本(同124%)、葉数5.8葉(平年差+0.2葉)となっている。(6月12日付)(秋田県農林政策課)</p>	<p>・7月の葉いもちの発生時期は平年並、発生量ははやや多いと予報。穀枯病の発生は多く、斑点米カメムシ類の発生量ははやや多いと予報(秋田県病害虫防除所 6月25日公表)</p>

生育状況等		
山形	<p>(生育) ・6月30日現在、平坦部「はえぬき」の生育は、草丈は平年並みで、茎数が多く、葉数はやや多く、葉色は平年並みとなっている。幼穂の検閲調査では、出穂は平年より2日程度早いと予想している。草丈は44.4cm(平年比98%)、茎数は713本/m(平年比116%)、葉数は9.5枚(平年差+0.4枚)、葉色は42.7(平年差+0.2)。 6月30日現在、「つや姫」の生育は、草丈は平年並みで、茎数はやや多く、葉色は平年並み(指標よりやや濃い)、生育はやや進んでいる(指標並み)。草丈は44.7cm(平年比97%)、茎数は568本/m(平年比106%)、葉数は9.3枚(平年差+0.3枚)、葉色は41.6(平年差-0.1)。 (オールやまがた米づくり日本一運動、県産米ブランド推進課 6月30日付)</p> <p>(西置賜) 6月30日現在、生育は2日程度進んでいる。草丈は平年並～やや短い、茎数はやや多い、葉数は平年並～2日程度早い、葉色は平年並～やや濃い。生育診断ほの「はえぬき」の生育は、草丈は平年比91～99%、茎数は平年比113～119%、葉数は平年差+0.0～0.2枚、葉色(SPAD値)は平年差-0.8～1.8。「つや姫」の生育は、草丈は平年比95～104%、茎数は平年比109%、葉数は平年差+0.1～0.3枚、葉色(SPAD値)は平年差+0.7～0.9。 (オールやまがた米づくり日本一運動画務地域本部 7月3日付)</p> <p>(鶴岡田川) 6月30日現在、平坦部では10葉目が展開中で、平年より生育が2日程度進んでいる。生育診断では、草丈は短く、茎数が平年と比べて多く、葉色は平年並に下がってきた。(庄内総合支庁農業技術普及課 7月3日付) 6月30日の幼穂調査の結果、早生品種「あきたこまち」は、出穂期は7月20日で平年より1日早く、中生晩「ひとめぼれ」、「はえぬき」は、出穂期は8月2日であり、いずれも2日早い予想。(庄内総合支庁農業技術普及課 7月3日付) 6月30日現在、直播栽培水稲の生育状況は、出芽・苗立は概ね良好、茎数が過剰気味のほ場も多く見られる。カルバーコーティング(鶴岡市)は、指標より草丈短く、茎数少なく、葉色淡く推移している。鉄コーティング(庄内町)は、草丈、茎数、葉数から見て、昨年を上回る生育。 (庄内総合支庁農業技術普及課 7月3日付)</p> <p>(東南村山) 6月30日現在、葉数はやや多く、葉色も濃い状況。「はえぬき」(山形市長苗代)の生育は、草丈は平年比96%、茎数は平年比97%、葉数は平年差+0.5枚、葉色(SPAD値)は平年差+1.4。「つや姫」(山形市南石間)の生育は、草丈平年比109%、茎数は平年比98%、葉数は平年差+0.2枚、葉色(SPAD値)は平年差-0.5。7月1日現在、出穂期はやや早い予想。(村山総合支庁村山農業技術普及課 7月3日付)</p> <p>(北村山) 6月30日現在、作柄診断ほの全般的な生育は、草丈は平年並～やや長く、茎数はやや多く、葉数は平年より2日程度早く、葉色はやや濃い～濃い。「はえぬき」(村山市・平沼地)の生育は、草丈44.2cm(平年比107%)、茎数656本/m(同比117%)、葉数9.4枚(同差+0.4枚)、葉色(SPAD)42.3(同差+2.4)。 「あきたこまち」(根花沢市中山間地)の生育は、草丈47.1cm(平年比118%)、茎数720本/m(同比167%)、葉数9.6枚(同差+0.7枚)、葉色(SPAD)40.5(同差-2.4)。(村山総合支庁北村山農業技術普及課 7月3日付) 「つや姫」生育調査圃の生育状況は、6月30日現在、指標に比べて、草丈はやや短く、茎数は多く、葉色はやや濃い。葉数から見て、生育は2日程度早まっている。(村山総合支庁北村山農業技術普及課 7月3日付)</p> <p>(最上) 6月30日現在、生育診断圃の生育は平坦部で2日程度進んでいる。中山間のあきたこまちでも同様に進んでおり、幼穂の分化が確認されている。いずれの圃場でも平年より茎数が多い状況。出穂時期は平年より2日程度早まる見込み。(最上総合支庁 7月2日付) 「つや姫」の生育は順調。早生・中生品種の出穂時期は平年より2日程度早まり、「つや姫」の出穂時期も同様に早まると予想される。(最上総合支庁 7月2日付)</p> <p>(酒田飽海) 6月30日現在の生育診断ほの生育は、草丈はやや長く、茎数は多く、葉数はやや進み、葉色は平年並み。水田農業試験場(鶴岡市藤島)の早生～中生品種の幼穂調査(6月29日)によると、早生～中生品種の今年の出穂は平年より2日早まると予測。灌水直播(鉄コーティング直播)は、中干しの時期に入った。 (酒田農業技術普及課 7月2日付)</p> <p>6月30日現在の「つや姫」の生育は、葉色が濃く、茎数過剰のほ場がみられる。草丈は平年並～短く、茎数は平年並～多く(600本以上あり)、葉数の展開は1～2日早く、葉色は平年並～濃い(40以上あり)。 (庄内総合支庁酒田農業技術普及課 7月2日付)</p> <p>(庄内) 平坦部の生育は平年より進んでいる。つや姫は中干し開始時期に至っている。 (庄内総合支庁農業技術普及課 6月23日付)</p>	<p>・7月の葉いもちの発生量は平年並、稲こじ病と斑点米カメムシ類の発生量は多い予想 (山形県病害虫防除所 7月1日公表)</p>
福島	<p>(生育) ・6月30日現在の生育調査では、草丈が平年並から長く、茎数が平年並から多く、主稈葉数が平年並から多くなっている。5月15日植えの本郷(郡山)では、草丈が平年より短く、茎数が平年より少なくなっている。 (福島県農水産部 7月7日付)</p> <p>(郡山) 6月19日現在の23ほ場の調査結果では、平坦部では草丈が平年並み、茎数は平年並みだが、ほ場によってバラツキがみられる。湖南地区は草丈は平年並み、茎数は平年より多くなっている。 (郡山市農作物生産対策協議会 6月19日付)</p> <p>(会津・喜多方) 天候にも恵まれたため、田植作業は平年より早かった。軟弱苗や高温により、植え痛みや葉先枯れなどの除草剤による被害が発生したほ場が散見されたが、その後、回復している。 (福島県喜多方農業普及所ほか 6月5日公表)</p>	<p>・斑点米カメムシ類が、水田畦畔で平年より多く確認されている。気温は平年並に推移すると予測されており、斑点米カメムシ類の活動が活発になると推測される。 (福島県病害虫防除所 6月30日公表)</p> <p>・イネミズゾウムシやイネドロオウムシの発生は、平年に比べやや少ない状況。(郡山市農作物生産対策協議会 6月19日付)</p>
茨城	<p>(水戸市) 6月30日現在、幼穂の発育程度から予測される出穂期は、5月1日に移植した「あきたこまち」で平年より1日早く、コンシカリで4日早い。平年に比べ、草丈は「あきたこまち」でやや短く、「コンシカリ」で並、茎数は両品種ともやや少なく、葉色は「あきたこまち」で並、「コンシカリ」で淡い。5月11日に移植した「コンシカリ」の主稈葉数の展開からみた生育は平年より8日程度進んでいる。平年に比べ草丈及び茎数は並、葉色はやや淡い。 (7月2日付)</p> <p>(龍ヶ崎市) 6月26日現在、幼穂の発育程度から予測される出穂期は、4月27日移植の「あきたこまち」は7月12日で、平年より1日早く、「コンシカリ」は7月23日で平年より2日早い。平年に比べ草丈は両品種ともやや長く、茎数は「あきたこまち」がやや多く、「コンシカリ」が並、葉色は「あきたこまち」がやや淡い～淡く、「コンシカリ」が濃い。5月19日移植の「あきたこまち」の出穂期は7月18日で平年並、主稈葉数の展開からみた「コンシカリ」の生育は、4～5日進んでいる。平年に比べ、両品種の草丈はやや長く、茎数は並、葉色は濃い。(6月30日付) (茨城県農業総合センター農業研究所)</p>	<p>・7月の葉いもちの発生量は、県下全域で平年並～やや多い予想。斑点米カメムシ類の発生量は、県下全域でやや多、発生時期はやや早い予想。 (茨城県病害虫防除所 7月2日公表)</p> <p>・綿葉枯病ウイルスのヒメトビウカの保毒率が高いことから注意喚起(茨城県病害虫防除所 6月18日公表)</p> <p>・関東では綿葉枯病の発生が多く、イネミズゾウムシの発生がやや多いと予想(農林水産省 6月23日付)</p>
栃木	<p>(生育) ・幼穂分化が確認され、6月24日現在の出穂期予測は、宇都宮市で5～6日、大田原市で4日程度、平年より早いと推定される。6月22日調査(16か所平均)の結果、早稲栽培のコンシカリの草丈は54.4cmで平年比107%と長く、茎数は533本/mで平年比96%とやや少ない、葉齢は9で平年並、葉色は4.1で平年差-0.4と淡い。葉齢から判断して、生育は平年並と考えられる。生育診断値(葉数×茎数)は2.138で平年比88%と小さい。 (栃木県 6月26日付)</p>	<p>・6月下旬のイネ科雑草を対象にした発生調査では、斑点米カメムシ類全体としては平年並の発生頭数が確認され、特にカスミカメ類では調査地点の80%以上で確認。今後、イネ科雑草等が出穂期を迎えると、水田への飛来が増加する可能性があるため注意が必要。 (栃木県農業環境指導センター 7月1日公表)</p> <p>・7月の綿葉枯病の発生量は多いと予想 (栃木県農業環境指導センター 6月19日公表)</p>
埼玉	<p>(生育) ・7月6日現在の生育状況 (県内全般) 普通栽培の移植は、平年より早く作業が進み概ね終了した。早期、早稲栽培の生育は、センター内同様、草丈、茎数は概ね平年並みで、高温により幼穂分化はやや早まっている。早期栽培の中干しも概ね順調に行われた。普通栽培は、活着は良好で初期生育も順調である。 (センター内生育圃) 早期栽培(5月1日植 コシヒカリ)は、草丈、茎数とも平年を上回って推移していたが、移植60日後の調査では草丈、茎数とも概ね平年並となっている。葉位の進展は平年よりやや早く推移している。 早稲栽培(5月20日植 彩のかがやき)は、草丈、茎数とも概ね平年並に推移している。葉位の進展は平年よりやや早い。生育は概ね順調。 普通栽培(6月25日植 キヌヒカリ)は、苗の充実度はやや低かったが、活着は良好で、生育は順調。 (埼玉県農業技術研究センター 7月6日現在)</p>	<p>・7月のいもち病の発生量はやや多、紋枯病及びヒメトビウカの発生量は平年並、綿葉枯病の発生量は多、ツマグロヨコバイの発生量は平年並、ニカメイチュウ及び斑点米カメムシの発生量はやや多、イネトウムシの発生量は少、セジロウカの発生量は少、イネアオムシの発生量はやや多の予想 (埼玉県病害虫防除所 6月29日公表)</p>
千葉	<p>(生育) ・4月20日頃に移植した「コンシカリ」は、「ふさおとめ」「ふさこがね」と同様、県内の多くのほ場で平年より10日程度早く幼穂形成期を迎えた。ただし、6月中旬の低温の影響により、地域による生育進捗の差が見られる。5月1日頃に移植した「コンシカリ」は、平年より3日から5日程度早く幼穂形成期を迎えると予測される。「コンシカリ」の草丈、葉色は平年並みだが、4月20日頃に移植した茎数はやや多い傾向となっている。 (千葉県農林水産部 6月26日付)</p>	<p>・関東では綿葉枯病の発生が多く、イネミズゾウムシの発生がやや多いと予想。南関東では紋枯病とニカメイガ、ヒメトビウカの発生がやや多いと予想(農林水産省 6月23日付)</p> <p>・向こう1か月間の発生量は、いもち病は平年並、紋枯病はやや多、イネドロオウムシは平年並、イネクロカメムシは多、ヒメトビウカは多、セジロウカは平年並、コバネアザガエシは多の予想 (千葉県農林総合研究センター 6月10日公表)</p>

生育状況等	
新潟	<p>- 6月30日現在のコンヒカリの生育は、指標値に比べ草丈は並、茎数はやや多い、葉色はやや淡くなっている。県内15か所の平均値（田植期の平均は5月13日）は、葉数10.2葉（前年差-0.1葉、指標値差+0.4葉）、草丈50cm（前年比100%、指標値比96%）、葉数26本/m²（前年比94%、指標値比109%）、葉色（SPAD値）37.4（前年差+1.0、指標値差-1.0） （「新潟米」情報センター 6月30日付）</p> <p>・6月30日現在の生育状況は、コンヒカリ・こしいぶきとも、県平均では指標値（生育のめやす）に比べ、葉数の進みは「やや早い」、茎数は「やや多い」、草丈・葉色は「平年並み」。地域別には、村上、新発田、長岡、南魚沼、上越で多く、草丈は上越で長く、葉色は新潟、新津、糸魚川で淡い状況 （新潟県農林水産部 7月1日付）</p> <p>(巻) 6月30日現在、草丈は指標値「やや短」、葉数は指標値「並～やや早い」、茎数は指標値「並～やや多」（ほ場間差あり）、葉色は指標値「並～やや淡」（ほ場間差や個体間差も大きい）。早生品種は、幼穂形成期を迎えている。 出穂期は、2日程早まる予想。（巻農業普及指導センター 6月30日付）</p> <p>(岩 船) 6月30日現在、草丈の伸長や葉数の進みが緩やかになり、葉色が淡くなっている。草丈はやや短く、茎数は平年並～多く、葉数はやや早く、葉色はやや淡い。早生品種は、幼穂が確認され始めている（運休植え新潟次郎：3～5mm程度）。（村上農業普及指導センター 6月30日現在）</p> <p>(新発田) 6月30日現在のコンヒカリは、草丈は53cmで指標値107%（やや長）、葉数は530本/m²で指標値118%（多）、葉数は10.4葉で指標値+0.7葉（多）、葉色は葉緑率計39.5で指標値+1.0（やや濃）。葉数の進みは、平年に比べ3～4日程度早めとなっているが、出穂は平年並（5/10移植コンヒカリ～8/8出穂）と予想される。 （新発田農業普及指導センター 6月30日付）</p> <p>(新潟) 6月30日現在、目標値と比べコンヒカリの生育は、草丈：並、茎数：やや多、葉齢：並、葉色：淡い、こしいぶきの生育は、草丈：やや長、茎数：やや多、葉齢：やや早、葉色：並。出穂期は平年より2日程早まる予想で、こしいぶきは7月26日出穂、コンヒカリは8月4日出穂の見込み。（新潟農業普及指導センター 6月30日付）</p> <p>(新津) 6月30日現在の生育状況は、指標値と比べて草丈はやや短く、茎数はやや少なく、葉数は並、葉色はやや淡い。出穂期は、平年より2日早い見込み（5月5日田植え）で、こしいぶきは7月28日、コンヒカリは8月4日と予想。 （新津農業普及指導センター 6月19日付）</p> <p>(三条) 6月30日現在、コンヒカリは指標値に比べ茎数は少なめ、葉色はやや淡く、特に早植えのほ場では葉色の低下が目立つ。こしいぶきの生育は、ほぼ指標値並で順調。（三条農業普及指導センター 6月30日付） 早生品種の生育は地域差、ほ場間差が大きい。出穂期は、ゆきん子舞は7月25日、こしいぶきは7月26日、わたぼうしは7月22日、五万石は7月21日と予想。（三条農業普及指導センター 7月1日付）</p> <p>(柏 崎) 6月30日現在、平坦地コンヒカリは指標値と比べ、草丈：並、茎数：やや多、葉色：並、中山間地コンヒカリも、平坦地と同様に生育している。こしいぶきは指標値と比べ、草丈：やや長い、茎数：多。生育は1～2日早まっている。 （柏崎農業普及指導センター 7月1日付）</p> <p>(柏崎・刈羽) 6月24日調査の結果、こしいぶきの出穂は平年より1～2日早まる見込み。田植日5月7日の出穂は7月27日の予想で、1日早い見込み。越路早生、新潟次郎などの極早生品種では、2mm程度の幼穂が確認され、平年より1～2日生育は早まっている。（柏崎地域農業振興協議会 6月26日付）</p> <p>(長 岡) 6月30日現在、5月中旬以降の平均気温が平年より高く推移し、日照時間も多かったことから生育ステージは早まっている。コンヒカリの生育（定点調査は7カ所）は、指標値に比べ草丈98%、葉数119%、葉色+1.2、葉色-1.0（SPAD値）である。 （長岡農業普及指導センター 6月30日付）</p> <p>(南魚沼) 6月30日現在のコンヒカリの生育状況は、草丈は45cm（指標値比93%）で「並」、葉数は558本/m²（同比123%）で「多」、葉色はSPAD値39.7（同差+0.8）で並、葉数は10.0葉でやや多い（同差+0.7）。出穂期は平年に比べ2～3日程度早くなる見込み。（南魚沼農業普及指導センター 6月18日付）</p> <p>(十日町) 平坦部、高標高地の草丈は平年並、葉数は平年並～やや多、葉齢はやや早く、葉色は平年並。台地の草丈の平年並、葉数はやや多く、葉齢はやや早く、葉色は平年並。出穂期は、平坦部で2日から1日早く、高標高地で平年より1日早い見込み。（十日町農業普及指導センター 7月1日付）</p> <p>(上 越) 6月30日現在のコンヒカリの生育（指標値比）は、草丈：長い（112%）、茎数：多い（126%）、葉数：多い（+0.9葉）、葉色：並（葉色値-0.1）。「こしいぶき」の生育（指標値比）は、草丈・茎数は並、葉色は濃くなっている。 （上越農業普及指導センター 6月30日付）</p> <p>(佐 渡) 6月18日現在のコンヒカリは、指標値に比べ草丈・葉数は並、葉色はやや濃く、生育は3日程早い。草丈は37cm（指標値比100%）、葉数は413本/m²（同比98%）、葉数は9.1枚（同差+0.5枚）、葉色（SPAD）は40.9（前年差+1.9）。 （佐渡農業普及指導センター 6月18日付）</p> <p>(糸魚川) 6月30日現在、平年と比べて、草丈は並、葉数は多い、葉数はやや多い～多い、葉色は淡い状況。葉数の進みが早く、出穂期は平年と比べて1～2日早くなる見込み。（糸魚川農業普及指導センター 7月1日付）</p> <p>(魚 沼) 移植後の好天により、初期生育は順調。（JA北魚沼・魚沼農業普及指導センター 6月10日付）</p>
富山	<p>- 生育観測ほデータ（7月7日現在） （コンヒカリ）葉齢の展開は遅くなり、草丈、葉色は平年並、茎数はやや多くなっている。生育量（草丈×m²葉数×葉色÷1000）の平均値は、133と概ね平年並だが、100から164とばらつきが大きくなっている。幼穂形成期。 出穂期は、それぞれ平年並の7月13日頃、8月4日頃と見込まれる。 （てんこもり）草丈、葉齢、葉色は平年並、茎数はやや少なくなっている。幼穂形成期と出穂期は、それぞれ平年並の7月17日頃、8月8日頃と見込まれる。 （てんたかく）出穂期は、7月19日頃になると見込まれる（5月5日移植）。 （富山県農業技術課 広域普及指導センター 7月7日付）</p> <p>(生育) - 直視情報（7月8日現在） ・湛水土中直視栽培（カルバー） 生育は、草丈、葉数、葉齢は平年並み、葉色はやや淡くなっている。 ・湛水表面直視栽培（鉄） 生育は、昨年と比べ、葉齢の展開はやや遅くなっている。 ・乾田V溝直視栽培 生育は、近年に比べて葉齢の展開はやや遅くなっており、草丈はやや短く、葉数は多く、葉色はやや淡くなっている。 （富山県農業技術課 広域普及指導センター 7月8日付）</p>
石川	<p><6月29日調査結果> 出穂期 ゆめみづほは近年より3～4日程度早く、加賀地域では7月14～19日頃、能登地域では7月19～23日頃と予想される。葉齢 コンヒカリの葉齢は、10.7葉（平年10.5葉）となっており生育は2日程度早い。加賀地域の生育の早い圃場では幼穂が確認されている（幼穂長0.1～0.5mm）。 草丈 コンヒカリは平年比105%（加賀地域104%、能登地域106%）と平年並、ゆめみづほは近年比109%（加賀地域108%、能登地域112%）と近年に比べ加賀地域はやや長く、能登地域では長くなっている。 茎数 コンヒカリは、平年比95%（加賀地域95%、能登地域96%）と平年並、ゆめみづほは近年比97%（加賀地域98%、能登地域96%）と近年並となっている。県下の調査地点の内、コンヒカリの約9割、ゆめみづほの約9割で最高分けつ期を経過している。 葉色 コンヒカリの葉色は4.2（葉色指標値）と低下傾向にあり平年並となっている。 （石川県農林総合研究センター 6月29日調査）</p> <p>- 7月中旬から下旬の斑点米カメムシ類の発生量は多く、穂いもちの発生量はやや少く、紋枯病の発生量はやや多い予報。セジロウカ、コブノメイガは平年並、ツマゴロヨコバイはやや多く、フタオビコヤガはやや少ない予報。 - 注意報一雄雑地における斑点米カメムシ類の発生は、平年の3.3倍と多い。特に、飛翔性カメムシ類は平年の3.8倍と多い。今後、活動が活発になると推測される。 （石川県農林総合研究センター 7月8日公表）</p> <p>・紋枯病の初発が平年より早いため、常発地や前年発生ほ場、茎数の多いほ場では多発する可能性。いもち病感染好適日の出現が多くなっており、斑点米カメムシ類の発生が多くなっている。（石川県農林総合研究センター 6月29日公表）</p>
福井	<p>- 7月2日水稲調査の結果は、コンヒカリは平年より遅く最高分けつ期を迎え始めている。草丈は平年よりやや短く、葉数はやや多い。（水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 7月3日付）</p> <p>(生育) - 7月の葉いもちの発生量は平年よりやや多く、早・中生穂いもちの発生量は平年よりやや多い予報。白葉枯病の発生量は平年並、紋枯病の発生量は平年よりやや多い予報。セジロウカ、ツマゴロヨコバイ、セジロウカ、イネネットムシ、イネアオムシの発生量は平年並の予報。 （福井県農業試験場 6月30日公表）</p> <p>・6月下旬の水田周辺雑草地における斑点米カメムシ類の生息密度は、平年、前年より非常に多く、特にカスミメシ類の発生が多くなっている。既に水田内への侵入もみられている。（福井県農業試験場 6月30日公表）</p>
長野	<p>- 7月1日現在、豊料定点ほ場では、草丈は平年より長く、葉数は多い傾向。現在、最高分けつ期で、茎数過剰のほ場も見られる。生育進捗は「平年より1～2日早い」と推定。あきたこまちは、7月2日に幼穂形成期に入り、「平年より5日早、昨年より2日早」。美山錦は7月3日に幼穂形成期に入り、「平年より5日早、昨年より3日早」。 （松本農業改良普及センター 平成27年作物技術普及情報第10号）</p> <p>・6月中旬～7月中旬の葉いもちの発生量は平年並、ニカメイチュウの発生量はやや少く、ヒメトビウカの発生量は平年並、イネゴの発生量は平年並、ツマゴロヨコバイの発生量は平年並、イネドロオムシの発生量は平年並、イネミスゾウムシの発生量はやや少と予報。（長野県病害虫防除所 6月15日公表）</p>

	生育状況等	
滋賀	<p>・生育の遅延は平年並だが、気温の変動が激しく、日々変動している。莖数は平年に比べやや多いが、移植時期等による差は大きい。6月30日時点の生育状況は、莖数は「コンヒカリ」、「秋の詩」とも平年よりやや短かく、莖数は「コンヒカリ」は平年よりやや多く、「秋の詩」は平年並であった。葉色および葉数は「コンヒカリ」、「秋の詩」とも平年並であった。 農業技術振興センターの「コンヒカリ」(5月11日移植)の幼穂形成期は7月5日。 (滋賀県農業技術振興センター 7月8日付)</p> <p>(生育) 「みずかみ」の生育状況(7月6日現在) 4月下旬移植は、出穂期は7月15日前後(13~17日)になると予想される。 5月上旬移植は、出穂期は7月20日前後(18~22日)になると予想される。 5月中旬移植の場合、出穂期は7月28日前後になると予想される。 5月下旬移植の場合、まもなく幼穂形成期を迎える見込みである。 (滋賀県農業技術振興センター 7月8日付)</p>	<p>・葉いもちと穂いもちの発生量は平年並、紋枯病の発生量はやや多く、白葉枯病の発生量はやや少ない予報。 ニカメイガ、セジロウカ、ヒメトビウカ、ツマグロヨコバイ、斑点米カメムシ類、イネモンジセシリの発生量は平年並、フタバオビヨシガの発生量はやや少ない予報。 (滋賀県病害虫防除所 7月7日公表)</p> <p>・7月の葉いもちの発生時期・量は平年並、紋枯病の発生時期は平年並、発生量はやや多、コバネイナゴの発生時期はやや早く発生量はやや少、イネコロカメムシの発生量はやや少の予報 (滋賀県病害虫防除所 6月23日公表)</p> <p>・近畿ではいもち病、イネミズゾウムシ、ヒメトビウカの発生がやや多いと予想(農林水産省 6月23日付)</p>
兵庫	<p>(生育) ・6月26日現在、県全体では、葉齢は平年並~やや遅延が速い。草丈は平年並~やや長い。莖数は平年よりやや少ない。 県北では、葉齢は平年並。草丈はやや低い莖数は平年よりかなり多い。 (兵庫県農政環境部 6月30日付)</p>	<p>・近畿ではいもち病、イネミズゾウムシ、ヒメトビウカの発生がやや多いと予想(農林水産省 6月23日付)</p> <p>・向こう1か月の発生量は、いもち病(葉いもち)は平年並、ヒメトビウカ(綿葉枯病)はやや多い、セジロウカ及びトビウカは平年並の予報 (兵庫県病害虫防除所 6月8日公表)</p>
岡山		<p>・7月の綿葉枯病の発生量はやや多、葉いもち、穂いもち、紋枯病の発生は平年並の予報。斑点米カメムシ類の発生量は少なく、ヒメトビウカ、ニカメイガは平年並、ツマグロヨコバイは少なく、セジロウカはやや少ない予報。 (岡山県 7月1日公表)</p>
広島		<p>・中国地方ではいもち病、綿葉枯病、ニカメイガ、ヒメトビウカの発生がやや多いと予想(農林水産省 6月23日付)</p>
山口	<p>(生育) ・各品種とも、おおむね過去の平均と同程度の生育状況となっている。コンヒカリ、ひとめぼれでは、最高分けつ期が近づき、分けつは発生は鈍化してきている。出穂期は、5月上旬移植が7月29日頃、5月中旬~下旬移植は8月3日頃。 6月移植のヒノヒカリでは、中旬以降の曇雨天等の影響で、莖数がやや少ないところが見られる。 (長門農林事務所農業部、JA長門大津、7月1日付)</p>	<p>・7月の葉いもち類の発生量はやや多、紋枯病は平年並の予報。斑点米カメムシ類、コブノメイガ、トビウカは平年並、セジロウカ、ヒメトビウカはやや少の予報。 (山口県病害虫防除所 7月1日公表)</p>
愛媛	<p>(生育) ・7月は、5月以降に田植えした極早生品種のコンヒカリ、あきたこまちは穂肥の時期にあたる。その適期を、幼穂長を目安に判断するよう指導。普通期水稲では浅水管理を基本とし、根の健全化を図るよう指導。 (愛媛県農林水産研究所 7月2日公表)</p>	<p>・7月のいもち病の発生量は平年並~やや多。 紋枯病はやや少~平年並の予報。 斑点米カメムシ類の発生量は平年並~やや多、イネツトムシは平年並、セジロウカ、コブノメイガはやや少の予報。 (愛媛県病害虫防除所 7月2日公表)</p>
高知	<p>(生育) ・早期稲 出穂期~穂揃期で、例年に比べ10日ほど生育が早い傾向で、6月末時点でナツヒカリは概ね穂揃期となっており、コンヒカリについても出穂が始まっている。一部地域では苗の供給が遅れたため、分けつ不足のまま出穂している状況も見られる。 ・普通期稲 活差期~分けつ盛期で、移植後の生育は特に問題なく良好であるが、曇雨天が続いたため、いもち病が多発傾向であり、今後の生育への影響が懸念される。 (高知県病害虫防除所 7月3日付)</p>	<p>・7月(早期稲) いもち病の発生量は西部では平年並~やや多であるが、それ以外の地域では多い予報。 (普通期稲) いもち病の発生量は東部ではやや少ないがそれ以外の地域では多い予報 (高知県病害虫防除所 7月3日公表)</p>
福岡	<p>(生育) ・早期水稲(コンヒカリ、夢つくし)の生育は順調で、中干し時期を迎えている。病害虫の発生は少なく、出穂期は平年より2~3日早い7月中旬の見込み。 ・普通期水稲は、5月中旬~6月上旬植えは田植え後の高温により生育は順調。麦収穫後の田植えが始まり、平坦地の「夢つくし」は6月上旬、「元氣つくし」は6月中旬、「ヒノヒカリ」は6月下旬が田植え最盛期となる見込み。 (福岡県農林業総合試験場 6月15日付)</p>	<p>・セジロウカの発生量は少なく、トビウカは平年並の予報。 (福岡県病害虫防除所 7月1日付)</p>
熊本		<p>・7月 早期水稲 穂いもちの発生量はやや多、早植え水稲の葉いもちの発生量はやや多、セジロウカの発生量は平年並の予報。 普通期水稲 葉いもちの発生量はやや多、セジロウカの発生量は平年並の予報。 (熊本県病害虫防除所 6月30日公表)</p>
宮崎	<p>(生育) ・6月中旬の早期水稲の生育ステージは穂ばらみ期、普通期水稲は移植前後。 (宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 6月29日付)</p> <p>・平成27年産早期米生育状況(6月下旬) 早期米の生育状況は、幼穂形成期~出穂期を迎えている。平年より、生育進捗が早く推移している。5月は降水量も少なく、日照時間が多かったため、生育スピードが速まったが、6月上旬に降水量が平年よりも多く、全体的に日照時間が少なくなっているが、依然生育進捗は早く、順調に生育している。 (JA宮崎経済連ホームページ 7月6日付)</p> <p>・「宮崎県産早期米産地情報」6月15日現在の生育ステージ(県全体) 幼穂形成期~出穂期。草丈が平年並、莖数はやや少なく、葉齢はやや少なく、生育進捗は早い。6月上旬が平年より降水量が多く、日照時間が少なくなってきたが、影響はほとんどなく順調に生育している。出穂期は早いところでは6月17日頃、遅いところでも6月末頃とやや早い進捗で生育している。 (中部地区) 穂ばらみ期~出穂期。生育は平年より5日早い。6月上旬の平均気温は、ほぼ平年並みで推移し、降水量は平年を大きく上回っており、日照時間はやや少なめで推移している。平年に比べ草丈がやや長く、莖数や葉齢はやや少なくなっている。出穂最盛期は、6月20日頃と見込まれる。 (南部珂地区) 穂ばらみ~出穂期。生育は平年より5日早い。降水量が平年よりも多く、日照時間が少なかったが、5月の気象条件がよかったため、生育は順調。予想出穂期は6月17日頃と見込まれる。 (児湯地区) 幼穂形成期~出穂期。生育は平年より3日早い。日照時間が少なく、降水量が多く推移し、平均気温もやや低めだが、5月の気象条件がよかったため、生育は順調。出穂最盛期は6月21日頃と見込まれる。 (東臼杵南部地区) 幼穂形成期~減数分裂期。生育は平年より3日早い。生育は良好であり、平年より草丈は長く、莖数も平年より多い状況。幼穂長は管内平均5.0cmとなっており、6月下旬頃が出穂であると思われる。 (JA宮崎経済連ホームページ 7月6日付)</p>	<p>・7月の病害虫の発生予報 早期水稲 葉いもち：多、紋枯病：平年並、ツマグロヨコバイ：やや多、セジロウカ：やや多、ヒメトビウカ：やや少、斑点米カメムシ類：平年並 普通期水稲 葉いもち：やや多、ツマグロヨコバイ：やや少、セジロウカ：やや多、ヒメトビウカ：平年並、スクミリンゴガイ：平年並 (宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 6月29日公表)</p>
鹿児島		<p>・7月 早期水稲 いもち病の発生量はやや多く、斑点米カメムシ類は平年並、紋枯病は少ない予報。 普通期水稲 いもち病の発生量はやや多い予報 (鹿児島県病害虫防除所 6月30日公表)</p>

注1：地方自治体及び出先機関並びにJA等がホームページで公表している資料を多数機関情報部で取り纏め。
注2：生産数量目標、収穫量、作況については、農林水産省の公表資料から抜粋。

道府県	備考 気象関連公表資料（気象台等公表資料の抜粋）	生産数量目標					収穫量（主食用） 26年度	作況指数 26年度
		参考			参考			
		平成27年度	前年度との比較	増減率	自主的取組参考値（深堀）			
全 国	<ul style="list-style-type: none"> 異常天候早期警戒情報 7月11～20日にかけて、北海道、東北、北陸地域では平均気温がかなり高くなる見込み。 （気象庁 7月6日発表） 西日本の長雨と日照不足に関する全般気象情報第2号 日本では九州南部、九州北部地方を中心に、6月初めから降水量が多く、日照時間の少ない状態が続いている。また、四国地方でも6月初めから日照時間の少ない状態が続いている。今後2週間も、曇りや雨の日が多い見込み。 （気象庁 7月6日発表） 7月11日～8月10日の1か月間は、前線や南からの湿った気流の影響を受けやすく、降水量はほぼ全国的に多い見込み。西日本では、日照時間が少なく、降水量が多い状態が続いているところがあり、向こう1か月も、曇りや雨の日が多い見込み。北日本と東日本日本海側では、暖かい空気が覆われやすく、期間の前半は気温がかなり高くなる見込み。北日本では、向こう1か月の気温も高い見込み。沖縄・奄美では、降水量は多く、日照時間が少ない見込み。 （気象庁 7月9日発表） （7～9月の3か月間の見通し） 気温は、北・東・西日本では、ほぼ平年並の見込み。 降水量は、北日本ではほぼ平年並、東・西日本では平年並が多い見込み。 （気象庁 6月24日発表） エルニーニョ現象が続いており、強まりつつある。今後、冬にかけてエルニーニョ現象が続く可能性が高い。（気象庁 6月10日公表） 	7,510,000	▲ 140,000	▲ 1.8	7,390,000	7,882,000	101	
北 海 道	<ul style="list-style-type: none"> 北海道地方の7月11日～8月10日の1か月間は、期間のはじめは気温がかなり高く、2週目にかけても高く、後半はほぼ平年並の見込み。日照時間は日本海側とオホーツク海側では平年並か少なく、太平洋側ではほぼ平年並の見込み。降水量は平年より多い見込み。 （札幌管区気象台 7月9日発表） 	547,330	▲ 6,810	▲ 1.2	538,580	597,200	107	
青 森	<ul style="list-style-type: none"> 東北地方の7月11日～8月10日の1か月間は、期間の前半は気温がかなり高く、平均気温も高い見込み。降水量は多く、日照時間は平年並みか少ない見込み。 （仙台管区気象台 7月9日発表） 	242,460	▲ 4,540	▲ 1.8	238,580	257,400	104	
岩 手	同上（仙台管区気象台 7月9日発表）	271,210	▲ 4,330	▲ 1.6	266,880	287,700	105	
宮 城	同上（仙台管区気象台 7月9日発表）	348,620	▲ 14,010	▲ 3.9	343,050	379,600	105	
秋 田	同上（仙台管区気象台 7月9日発表）	417,540	▲ 15,500	▲ 3.6	410,860	453,000	104	
山 形	同上（仙台管区気象台 7月9日発表）	344,500	▲ 14,070	▲ 3.9	338,990	380,700	105	
福 島	同上（仙台管区気象台 7月9日発表）	339,550	▲ 8,870	▲ 2.5	334,130	350,600	104	
茨 城	<ul style="list-style-type: none"> 関東甲信地方の7月11日～8月10日の1か月間は、気温は期間の前半は平年並か高く、後半はほぼ平年並の見込み。降水量は多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 （気象庁 7月9日発表） 	337,370	▲ 4,180	▲ 1.2	331,980	396,200	105	
栃 木	同上（気象庁 7月9日発表）	298,690	▲ 10,640	▲ 3.4	293,920	313,700	100	
埼 玉	同上（気象庁 7月9日発表）	151,270	▲ 1,410	▲ 0.9	148,850	169,800	102	
千 葉	同上（気象庁 7月9日発表）	246,490	▲ 2,790	▲ 1.1	242,550	325,300	104	
新 潟	<ul style="list-style-type: none"> 北陸地方の7月11日～8月10日の1か月間は、期間の前半は気温がかなり高くなり、後半はほぼ平年並の見込み。降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 （新潟地方気象台 7月9日発表） 	521,290	▲ 14,350	▲ 2.7	512,960	576,000	101	
富 山	同上（新潟地方気象台 7月9日発表）	185,650	▲ 6,690	▲ 3.5	182,680	193,100	101	
石 川	同上（新潟地方気象台 7月9日発表）	123,630	▲ 2,770	▲ 2.2	121,650	123,400	98	
福 井	同上（新潟地方気象台 7月9日発表）	125,460	▲ 2,670	▲ 2.1	123,460	126,000	98	
長 野	<ul style="list-style-type: none"> 関東甲信地方の7月11日～8月10日の1か月間は、気温は期間の前半は平年並か高く、後半はほぼ平年並の見込み。降水量は多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 （気象庁 7月9日発表） 	194,000	▲ 2,640	▲ 1.3	190,900	195,800	96	

気象関連公表資料（気象台等公表資料の抜粋）		t		%	t		
滋 賀	・近畿地方の7月11日～8月10日の1か月間は、平均気温はほぼ平常並、降水量は多く、日照時間は 平常並か少ない見込み。 （大阪管区気象台 7月2日発表）	160,450	▲ 2,930	▲ 1.8	157,880	157,100	97
兵 庫	同上（大阪管区気象台 7月9日発表）	180,440	▲ 1,490	▲ 0.8	177,560	177,800	97
岡 山	・中国地方の7月11日～8月10日の1か月間は、2週目の気温は平常並が高く、平均気温はほぼ平常 並の見込み、降水量は多く、日照時間は平常並か少ない見込み。 （広島地方気象台 7月9日発表）	158,550	▲ 1,640	▲ 1.0	156,020	153,300	94
広 島	同上（広島地方気象台 7月9日発表）	129,970	▲ 160	▲ 0.1	127,890	123,300	95
山 口	・九州北部地方（山口県含む）の7月11日～8月10日の1か月間は、平均気温はほぼ平常並、降水 量は多く、日照時間は平常並か少ない見込み。 日照時間が少なく、降水量が多い状態が続いているところがあり、今後も、平年に比べ曇りや 雨の日が多い見込み。 （福岡管区気象台 7月9日発表）	108,760	▲ 2,060	▲ 1.9	107,020	103,800	96
愛 媛	・四国地方の7月11日～8月10日の1か月間は、平均気温はほぼ平常並、日照時間は平常並か少な い見込み。 日照時間が少なく、降水量の多い状態が続いているところがあり、今後も平年に比べ曇りや 雨の日が多いため、降水量は平年より多くなる見込み。 （高松地方気象台 7月9日発表）	73,920	▲ 570	▲ 0.8	72,740	73,000	98
高 知	同上（高松地方気象台 7月9日発表）	50,070	20	0.0	49,270	55,600	95
福 岡	・九州北部地方（山口県含む）の7月11日～8月10日の1か月間は、平均気温はほぼ平常並、降水 量は多く、日照時間は平常並か少ない見込み。 日照時間が少なく、降水量が多い状態が続いているところがあり、今後も、平年に比べ曇りや 雨の日が多い見込み。 （福岡管区気象台 7月9日発表）	182,470	▲ 1,910	▲ 1.0	179,550	176,400	96
熊 本	同上（福岡管区気象台 7月9日発表）	189,310	▲ 610	▲ 0.3	186,290	180,500	97
宮 崎	・九州南部地方の7月11日～8月10日の1か月間は、平均気温は平常並か低く、降水量は多く、日照 時間は平常並か少ない見込み。 日照時間が少なく、降水量が多い状態が続いているところがあり、今後も、平年に比べ曇りや 雨の日が多い見込み。 （鹿児島地方気象台 7月9日発表）	93,600	▲ 870	▲ 0.9	92,100	84,600	98
鹿 児 島	同上（鹿児島地方気象台 7月9日発表）	111,070	▲ 470	▲ 0.4	109,290	102,300	95

参考資料:

平成27年産米の都道府県別の生産数量目標について(農林水産省)
平成26年産水陸稲の収穫量(農林水産省)
平成27年度病害虫発生予報第3号(農林水産省)

農作物の生育状況 7月1日現在(北海道 7月3日)、農作物生育状況 7月1日現在(北海道空知総合振興局 7月3日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道石狩振興局 7月3日)、農作物の生育状況 7月1日現在(北海道後志総合振興局 7月3日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道胆振総合振興局 7月3日)、農作物の生育状況 7月1日現在(北海道日高振興局 7月3日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道渡島総合振興局 7月3日)、農作物の生育状況 7月1日現在(北海道檜山振興局 7月3日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道上川総合振興局 7月3日)、農作物生育状況調査の概要 7月1日現在(北海道留萌振興局 7月3日)、
農作物の生育と農作業の進捗状況 7月1日現在(北海道オホーツク総合振興局 7月3日)、
病害虫発生予察情報第6号7月予報(北海道病害虫防除所 6月30日)、
作況調査報告(6月30日現在)(青森県産業技術センター・農林総合研究所 7月1日)、稲作生産情報第5号(青森県 7月3日)
平成27年度病害虫発生予報第4号(7月予報)(青森県病害虫防除所 7月2日)、
平成27年度水稲生育定期調査結果 No.4(7月6日現在)(岩手県農業研究センター 7月8日)、
平成27年度病害虫防除速報No.6水稲編-3(岩手県病害虫防除所 7月6日)、平成27年度病害虫発生予察情報発生予報第4号(岩手県病害虫防除所 6月30日)、
平成27年度宮城県米づくり推進本部情報第1号(宮城県米づくり推進本部 7月8日)、
平成27年産水稲の生育状況について(7月1日現在)(宮城県農林水産部 7月2日)、平成27年産山南稲作情報(第4号)(宮城県大河原農業改良普及センター 7月2日)、
平成27年産美里地区の稲作情報第5号(宮城県美里農業改良普及センター 7月3日)、栗原の稲作通信平成27年第4号(栗原農業改良普及センター 7月3日)、
仙台直播情報稲作情報平成27年度版第2号(仙台農業改良普及センター 7月2日)、平成27年産稲作技術情報第6号(宮城県大崎農業改良普及センター 7月2日)、
登米地域の稲作通信第5号(登米農業改良普及センター 7月2日)、稲作情報Vol.4(石巻農業改良普及センター 7月3日付)、
稲作情報Vol.6(本吉農業改良普及センター 7月2日)、平成27年度稲作情報第2号(亶理農業改良普及センター 6月17日)
平成27年度発生予察情報発生予報第6号(概要版)(宮城県病害虫防除所 7月7日)、平成27年度発生予察情報注意報第2号(宮城県病害虫防除所 7月3日)、
平成27年度発生予察情報発生予報第5号-水稲-(宮城県病害虫防除所 6月23日)、
生育状況の情報(秋田県ホームページ「こまちチャンネル」http://www.e-komachi.jp/ 7月3日)、
平成27年度農作物病害虫発生予察情報発生予報第3号(7月予報)(秋田県病害虫防除所 6月25日)、
米づくり技術情報NO.4(山形県産米ブランド推進課 7月1日)、おきたま米づくり情報No.6(置賜総合支庁産業経済部西置賜農業技術普及課 7月3日)、
おいしい米づくり情報第8号・おいしい米づくり情報第9号・水稲直播情報第4号(庄内総合支庁農業技術普及課 7月3日)、
おいしい米づくり情報第7号穂肥編(村山総合支庁農業技術普及課 7月3日)、
稲作だより第6号穂肥編・つや姫だより第5号(村山総合支庁産業経済部 北村山農業技術普及課 7月7日)、
稲作だより第8号穂肥編・つや姫情報第3号(最上総合支庁 7月2日)、酒田飽海つや姫情報第5号(庄内総合支庁酒田農業技術普及課 7月2日)、
酒田飽海日本一米づくり情報第7報(庄内総合支庁酒田農業技術普及課 7月2日)、酒田飽海つや姫情報第4号(庄内総合支庁酒田農業技術普及課 6月22日)、
平成27年度農作物有害動植物発生予察情報発生予報第4号(7月)(山形県病害虫防除所 7月1日)、
主要な農作物の生育情報平成27年度第4号(福島県農林水産部 7月8日)、郡山市農作物生産対策協議会(郡山市園芸畜産振興課 6月26日)、
稲作情報平成27年度第3号(福島県喜多方農業普及所ほか 6月5日)、平成26年度病害虫発生予察情報注意報第4号(福島県病害虫防除所 6月30日)、
農研速報(水稲の生育状況)(6月30日現在、水戸市)(茨城県農業総合センター農業研究所作物研究室 7月2日)、
農研速報(水稲の生育状況)(6月26日現在、龍ヶ崎市)(茨城県農業総合センター農業研究所作物研究室 6月30日)、
病害虫発生予報7月号(茨城県病害虫防除所 7月2日)、病害虫速報No.3(茨城県病害虫防除所 6月18日)、
平成27年度水稲生育診断予測事業速報No.3(栃木県 6月30日)、植物防疫ニュース(速報No.5)(栃木県農業環境指導センター 7月1日)、
平成27年度病害虫発生予報第3号(栃木県農業環境指導センター 6月19日)、
平成27年度水稲の生育概況vol.2(埼玉県 7月7日)、平成27年度病害虫発生予報第3号(7月予報)(埼玉県病害虫防除所 6月29日)、
水稲の生育状況と当面の対策第3報(千葉県農林水産部 6月26日)、平成27年度病害虫発生予報第3号(千葉県病害虫防除所 6月10日)、
水稲の生育状況と今後の管理対策第4号(新潟県農林水産部 7月1日)、水稲の生育状況(「新潟米」情報センター 7月3日)、
水稲生育速報(巻農業普及指導センター 6月30日)、岩船米生育速報(6月30日現在)(村上農業普及指導センター)、
新発田地域水稲育成速報No.4(新発田農業普及指導センター 6月30日)、新潟稲作速報No.4(新潟農業普及指導センター 6月30日)、
FAX稲作速報(三条農業普及指導センター 6月30日)、FAX稲作速報(追加情報)(三条農業普及指導センター 7月1日)、
水稲生育速報No.4(新潟農業普及指導センター 7月1日)、稲作管理情報4(柏崎農業普及指導センター 7月1日)、
稲作だより(柏崎地域農業振興協議会 6月26日付)、南魚沼地域水稲生育速報2(6月30日現在)(南魚沼農業普及指導センター 6月30日)、
水稲生育速報(6月30日)(上越農業普及指導センター)、平成27年度 稲作生育速報No.3(佐渡農業普及指導センター 6月18日)、
水稲生育速報(長岡農業普及指導センター 6月30日)、7/1稲作生育速報(十日町地域)(十日町農業普及指導センター)、
平成27年度糸魚川売れる米づくり水稲生育情報No.4(糸魚川農業普及指導センター 7月1日)、稲作情報(IA-北魚沼・魚沼農業普及指導センター 6月10日付)
平成27年度病害虫発生予察情報・注意報第1号(新潟県病害虫防除所 7月1日)、
平成27年度新潟県病害虫発生予察情報・予報第4号(7月の発生予想)(新潟県病害虫防除所 7月1日)、
TACS情報第7号(富山県農業技術課広域普及指導センター 7月7日)、直播情報第5号(富山県農業技術課広域普及指導センター 7月8日)、
病害虫発生予報第4号(富山県農林水産総合技術センター 7月1日)、
平成27年産水稲の生育状況と今後の対策(水稲生育診断技術確立調査-6号)(石川県農林総合研究センター 6月29日調査)、
平成27年度病害虫発生予報第4号(石川県農林総合研究センター 7月8日)、
稲作情報No.9(福井県水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 7月3日)、平成27年農作物病害虫発生予察予報第5号(福井県農業試験場 6月30日)、
平成27年農作物病害虫発生予察注意報第1号(福井県農業試験場 6月30日)、
平成27年度作物技術普及情報第10号(長野県松本農業改良普及センター)、病害虫発生予報第3号(長野県病害虫防除所 6月15日)、
平成27年度水稲生育診断情報No.3(滋賀県農業技術振興センター 7月8日)、平成27年病害虫発生予報第6号(滋賀県病害虫防除所 7月7日)、
平成27年病害虫発生予報第5号(滋賀県病害虫防除所 6月23日)、
平成27年度兵庫県農業気象技術情報第3号(7月情報)について(兵庫県環境環境部 6月30日)、平成27年度病害虫発生予察予報第2号(兵庫県病害虫防除所 6月8日)、
平成27年度病害虫発生予報第4号(岡山県病害虫防除所 7月1日)、
稲作ワンポイントアドバイス(No. 4)(J A 長門大津・長門農林事務所 7月1日)、農作物病害虫発生予報7月(山口県病害虫防除所 7月1日)、
気象情報に基づく技術対策・作物(愛媛県農林水産研究所 7月2日)、病害虫発生予報(7月)(愛媛県病害虫防除所 7月2日)、
平成27年度病害虫発生予察6月報(高知県病害虫防除所 7月3日)、平成27年度病害虫発生予察予報第4号(7月)(高知県病害虫防除所 7月3日)、
福岡県の主な農作物の生産状況(福岡県農林業総合試験場 6月15日)、平成27年度病害虫発生予報第4号(7月)(福岡県病害虫防除所 7月1日)、
平成27年度病害虫発生予報第4号(7月予報)(熊本県病害虫防除所 7月1日)、
平成27年産早期米生育状況・平成27年産宮崎県産早期米産地情報(平成27年6月15日現在)(宮崎経済連ホームページhttp://www.miyazaki-cha.jp/kome/index.html 7月6日)
平成27年度病害虫発生予報第3号(宮崎県病害虫防除所・肥料検査センター 6月29日)、
平成27年度病害虫発生予報第4号(鹿児島県病害虫防除所 6月30日)

北海道地方方向ご1か月の天候の見通し(札幌管区気象台)、東北地方方向ご1か月の天候の見通し(仙台管区気象台)、関東甲信地方方向ご1か月の天候の見通し(気象庁)、
北陸地方方向ご1か月の天候の見通し(新潟地方気象台)、近畿地方方向ご1か月の天候の見通し(大阪管区気象台)、中国地方方向ご1か月の天候の見通し(広島地方気象台)、
四国地方方向ご1か月の天候の見通し(高松地方気象台)、九州北部地方方向ご1か月の天候の見通し(福岡管区気象台)、九州南部・奄美地方方向ご1か月の天候の見通し(鹿児島地方気